

各 位

会 社 名 北日本紡績株式会社
 代表者名 代表取締役社長 粕谷 俊昭
 (コード：3409、東証スタンダード)
 問合せ先 取締役 篠原 顕二郎
 (TEL. 076-277-7530)

**連結決算における特別損失（減損損失）と営業外収益（為替差益）の計上、
 個別決算における特別損失（関係会社株式評価損）の計上、
 並びに2024年3月期連結業績予想数値と実績値の差異に関するお知らせ**

当社は、2024年3月期第4四半期の連結決算において、下記のとおり特別損失（減損損失）と営業外収益（為替差益）を計上するとともに、個別決算において、下記のとおり特別損失（関係会社株式評価損）を計上いたしました。また、2023年5月15日に公表しました2024年3月期連結通期業績予想数値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失（減損損失）の計上について

2021年3月期より開始したリサイクル事業につきましては、当初コロナ禍後の日本経済及びプラスチック需要の回復を期待し、また、製造販売においては人員の確保による売上増を見込んでおりましたが、中国経済の減速に伴う日本国内需要への影響、及び予想以上に製造と営業に係る人員確保に苦戦したことにより、当初計画していた投資回収の見込みが遅れております。

また、松任工場においては、本年初に発生した「令和6年能登半島地震」の影響により、一時的に営業活動及び物流への影響があり、原材料の仕入が計画を下回っております。

2021年11月に取得した子会社金井産業株式会社につきましては、自動車産業を中心とした原材料の仕入は順調に回復しているものの、退職者の補充を含め増産に対応する人員確保に苦戦しており、売上の増加には結びついていない現状にあります。

以上の結果、固定資産への投資に回収可能性が無いと判断し、有形固定資産の期末帳簿価額 222,319千円及びのれんの期末帳簿価額 48,544千円を0円まで引き下げ、減損損失を計上する処理を行うことといたしました。連結決算においては、税金等調整前当期純損失は 86,426千円となり、親会社株主に帰属する当期純損失は 115,620千円（上記に係る繰延税金資産は計上しておりません。）となりました。

今後は、引き続き人員確保への注力、品質改善による販路拡大、及び原材料の多様化（フレコン以外のリサイクルプラスチック原料）に対応する生産体制構築を推進することにより事業拡大を図り、当初の目的である環境事業を継続してまいります。

2. 営業外収益（為替差益）の計上について

当社は、2024年3月期第4四半期累計期間（2023年4月1日～2024年3月31日）の連結決算において、外国為替相場の変動により 12,064千円の為替差益が発生し、営業外収益に計上することとなりました。上記は、主として保有する米ドル預金について、第4四半期末(2024年3月31日)の為替レートで換算した評価益であります。

3. 特別損失（個別決算：関係会社株式評価損、連結消去）の計上について

2021年11月に取得した子会社金井産業株式会社につきましては、製造人員の確保に苦戦し、生産量及び販売量の減少から業績が悪化したことで、当該子会社個別決算における純資産は、弊社が関係会社株式として計上している帳簿価額の二分の一を下回るまでに減少いたしました。

当社の個別決算においては、株式の実質価値が著しく低下していると判断するに至り、関係会社株式の帳簿価額を当該子会社の純資産相当額まで減額して、差額の69,436千円を関係会社株式評価損として特別損失に計上しております。

なお、上記は連結調整にて適切に相殺消去されていることから、連結財務諸表への影響はありません。

4. 2024年3月期通期の連結業績予想数値と実績値との差異（2023年4月1日～2024年3月31日）

（2023年4月1日～2024年3月31日）

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|------------------------|-------|------|------|-------------------------|----------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 円銭 |
| 前回発表予想（A） | 1,450 | 8 | 15 | 15 | 0.80 |
| 実績値（B） | 1,307 | △61 | △42 | △115 | △5.90 |
| 増減額（B－A） | △143 | △69 | △57 | △130 | |
| 増減率（％） | △9.84 | — | — | — | |
| （参考）前期実績 （2023年3月期） | 1,185 | △154 | △92 | △271 | △15.53 |

（差異の理由）

2024年3月期連結期間の業績につきましては、売上高は、紡績事業の主力であるアラミド繊維の受注状況が自動車生産の回復及び防護服等の官需要の増加によって、ほぼ計画とおりの受注量となりました。加えて、原燃料の高騰に対応する加工費の改定が進んでおります。テキスタイル事業につきましては、海外市場の需要の取り込みが進んだうえ円安効果により売上高及び営業利益が計画を大幅に上回る結果となりました。

一方、リサイクル事業につきましては、上記「1. 特別損失（減損損失）の計上について」に記載のとおりリサイクルを取り巻く需給環境の悪化及び人員確保の問題が影響し対前年比より営業利益が増加にはなったものの実績が前回発表予測を下回りました。

以 上